

Music

70年代の隙間に落ちてしまったバンド 『BATDORF AND RODNEY』

Text & Photo: George Cockle
文・写真/ジョージ・カックル



*George at his house, 1972.
Tachikawa Japan.*

カリフォルニアで活躍していたミュージシャン、ジョン・バットドルフとマーク・ロドニーが組んだ、BATDORF AND RODNEYは、70年代のアコースティックスタイルのデュオだ。1971年に発売されたデビューアルバム『Off The Shelf』はその後、廃盤になり、今年ワーナーミュージック・ジャパンから再発売された。70年代のアルバムのリバイバルブームによって、彼らの音楽は再び僕達の前に現れた。

このアルバムには、忘れられない思い出がある。僕は高校生だった1972年から1973年の夏にかけて、立川の米軍キャンプに住んでいた。福生にあった横田基地が開発され、立川は閉鎖される予定になっていた。残っていたのは映画館、PX、食堂ぐらいで、翌年には学生達も横田基地に行くことになっていた。高校2年の夏、仲間達と公園でアメフトをやっていたときのことだった。何台もの消防車が赤いランプを点灯しながらサイレンを鳴らして、僕達が遊んでいた公園の前を横切った。俺達はアメリカのふざけた高校生だったので、みんなで「GO! GO!」と叫んで消防車を応援していた。すると、最後に走っていた消防車が急に止まって俺達に叫んだ。「Hey Cockle,

it's your damn house!」(おい、カックルお前の家だぞ!) そのとたん、仲間が急に真剣な顔になって、僕の方を向いた。笑っていた俺も真顔になった。そう、僕の家が火事だったんだ。俺は消防車に乗せてもらい、家までつれて行ってもらった。親や妹のことが心配で、車の中は沈黙。家まですごく長く感じた10分間だった。家に着くと、家はほとんど焼けていたが、奇跡的に僕の部屋だけ焼けていなかった。建て増しをした部分だったおかげで、火が回らなかったらしい。

当時の僕はビートルズの映画『ヘルプ』に憧れて、床より下に寝床があるサンケンベッドがどうしても欲しかった。でもコンクリートを掘ることはできないので、床を全体的に50センチぐらいあげ、カスタムで作ってもらった長い畳を一枚入れてベッドにしていた。周りにはレコードを入れるラックとレコードプレイヤーをいれるスペースをつけた。僕のレコードは熱の影響を受けず、ほとんど無事だったが、友達に借りていた1枚のレコードだけが溶けてしまった。返そうと思って、壁にある本棚に入れてあったからだ。それがこのアルバムで、タイトルが『Off The Shelf』だったのも皮肉なことだ。

BATDORF AND RODNEYはヒットシングルこそなかったが、70年代にはカルトバンドとして注目されていた。『名前がない馬』に代表されるアメリカのスタイルだが、長いアコギのインストがたっぷり入っていて、ジャムバンドのような要素もある。カリフォルニアの太陽を思わせるイージーなハーモニーがふんだんに入った曲ばかりだ。しかし彼らは残念ながら70年代の隙間に落ちてしまったバンドの一つだ。70年代に3枚もレコードを出して注目はされたが、すべてレーベルが違っていたので、プロモーションがしっかりできていなかった。もし3枚とも同じレーベルで出していたなら、イメージや売り方も統一感ができて、もっと売れて、有名なバンドになっていたに違いない。

話は戻るけど、あの火事の日、なぜ消防隊員が僕のことを知っていたのか、今でも不思議なんだ。会ったこともなかったのに…。



ジョージ・カックル ● 60～70年代のロックに精通し、ラジオ・パーソナリティとしてインターFMや東京FMで活躍中。鎌倉出身・在住。波乗り歴40年の親父サーファー。
www.whatsupmusicinc.com